

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月16日

事業所名:URAURA稲生

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		活動スペースの分化	
	2	職員の配置数は適切である	100%			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	29%	71%		順次改善していく。 (①スロープの設置②トイレ手すり)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%	14%	定期的にミーティングを設けている。	PDCAサイクルを意識したミーティングを行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	71%	29%	保護者アンケート実施	アンケートの内容をしっかりと検討して支援につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		100%		今年度開所のため今回より実施予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		100%		将来的に外部評価の導入を視野に検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		現在も内外の研修に参加	積極的に内外の研修に参加し、外部研修時は研修内容を共有するよう図っていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		日々状況を確認し支援している	アセスメントの重要性を職員全体で共有し計画書の作成をしていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		事業所で作成したアセスメントシートを使用	必要に応じてアセスメントシートの改善を行っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		チームで立案している	単発活動だけでなく、継続した活動の提供も行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		状況により個別支援の工夫をしている	活動のプログラムは振り返りをもとに工夫していく。単発活動だけでなく、継続した活動の提供も行っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			利用者様の特性に合わせて、活動が目的のあるものになるよう支援していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	71%	29%	毎日集団活動と個別活動を計画している	今後しっかりとカンファレンスを実施して支援につなげていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		朝礼時に確認している	打ち合わせを継続していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		夕礼時に共有している	出来ているが更に深めていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		日々の記録の記入	出来ているが今後さらに記入方法を統一していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	14%	定期的にモニタリングを行っている	3~6か月でモニタリングを実施し、適宜サービス計画を見直していく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	57%	43%		職員間でガイドラインを確認しそれに沿った支援をしていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		担当指導員が参画している	児童発達支援管理責任者と共に担当指導員が参加するようにしていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		毎回保護者様に連絡ノートで確認を取っている	必要に応じてメールなどで確認を取り、学校とも情報共有を図っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	43%	57%	現在対象者がいない	現在は受け入れに必要な体制が整っておらず、今後のニーズを踏まえ検討する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	71%	29%		児童発達支援事業所などとの間で情報共有や相互理解に努めるように努力していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	43%	57%	現在までに対象者がいない	進路のひとつとなる就労事業所について知るため、職員を派遣し、体験研修をする機会を設けている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		助言、指導を受けている	各専門機関の研修の積極的に参加し関係機関との情報共有を密にしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	57%	43%		今後の課題として検討していく。実施については目的をしっかりと共有する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	71%	29%	連絡会等に参加	今後も管理者や児童発達支援管理責任者が積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		ラインや訪問時に伝えている	連絡ノートや送迎時に保護者に状況を伝え共通理解を図っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	29%	71%		今後の課題として研修参加など検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			保護者の悩みなど職員全員が共有するようにしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86%	14%		今後さらに支援を広げていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			管理者、児童発達支援管理責任者を中心に職員全体で対応できるようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		毎月実施している	毎月の活動記録を発行している。このまま続けていく。
	35	個人情報に十分注意している	100%			定期的に情報管理についてミーティングで確認する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	14%		さらなる配慮をしていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	86%	14%		法人として計画された行事を継続していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	43%	57%		策定又は見直しを行い、周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	71%	29%	2カ月に1度訓練を実施	定期的に訓練など防災についての意識を高めていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		研修を行っている	虐待防止のための会議、研修などを続けていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	71%	29%		契約時の説明を丁寧に行う。拘束の必要性について協議し、拘束の解消に努めていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	57%	43%	現在対象者がいない	食事の調理は行っていないが、弁当の購入やおやつ等は家族からの申し出によって対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		随時ヒヤリハットを作成し、検討している	今後もヒヤリハットを作成し、業務改善に取り組んでいく。